



『翁草』は、京都東町奉行所与力「神沢杜口(1710～1795年)」により、寛政3年(1791年)、全200巻(約1300話)が完成したとされている。

翁草は、一般的には随筆として分類されているが、他書の一部をそのまま写した部分も多い。

しかし、杜口の関心の赴くままに、歴史・地理・文学・芸能・有職故実・芸術・工芸・宗教・京都の事件や風俗、等々、百般に渡る直接・間接の見聞も少なからず記録していて、江戸時代を理解する上で有益な史料となっている。

左の写真(演者撮影)が、その原本である。200巻=200冊ではなく、一冊に数巻が記されている。

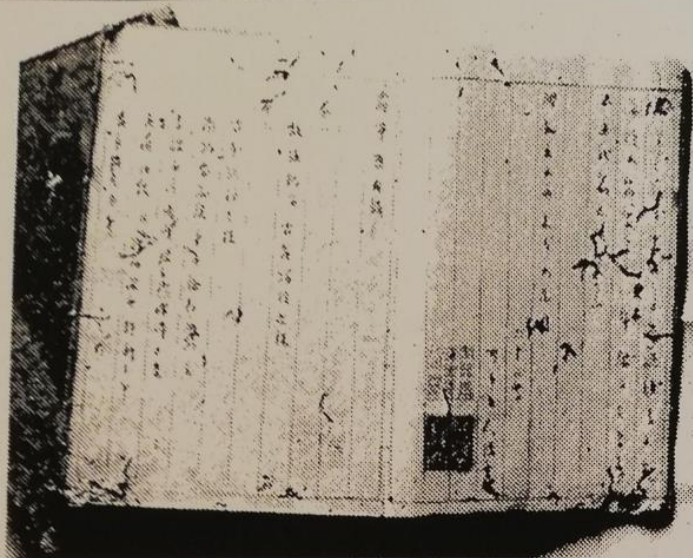
# 近世後期の関西 記す史料「翁草」

## 著者自筆の原本と確認

宗政  
竜大教授

近世後期、関西での風俗、事件、文壇事情などに関して第一級の史料とされる神沢杜口著「翁草」二百巻の著者自筆原本が、枚方市在住の子孫の家に保存されていることがわかった。同家では単なる写本として伝えていたが、このほど近世国文学の権威、宗政五十緒・竜谷大教授の調べで、著者直筆の原本であることが確認された。これまで「翁草」には写本、版本、翻刻本などが知られているが、いずれにも異同が多く、約二百年ぶりの原本出現は、これら疑問部分の考証、解明にも基本の史料となるものとして注目されている。

### 枚方の子孫保存



神沢杜口(かんざわ・とし)の名は貞幹(は宝永七年(一七二〇)に生まれ、寛政七年(一七九五)、京都でなくなつた。幼少ころ、生家の入沢家から神沢家の養子となり、家職の京都町奉行与力をつとめた。四十三歳には早々と退役し、後半生は趣味の俳句や文筆にいそしんだ。

見つかった「翁草」の著者自筆原本

「翁草」は、隠居後の杜口保存者は、枚方市加子作北町、無職入江信男さん(六六)で、杜口の実家の子孫にあたる。全二百巻は四十冊にとじてあり、一部に虫へこみのあるもの

の、読むのに支障はない。

京都石仏会の佐野精一さん(五五)「京都市石京区花園妙心寺町」が、上京区の寺に残る杜口の墓を見つけたことから、同墓の補修話を持ち上がり、子孫の入江さんの所在が判明、同家秘蔵の本が目の目を見るに至った。

調査にあたった宗政教授は、序文に付された雅号「可々斎」印、各巻、この関防印や蔵書印を確かめ、また筆跡、内容、保存者の系譜などを総合して「著者自筆の原本にまちがいない」と結論した。

同教授は「いい本が、出てきました。翁草の写本には流布本系と異本系があり、そのうち流布本系の原本にあたるものです。著者の筆跡にくせがあって、転写のとき誤りがかなり生じたことが推測できます。全巻を翻刻してもいいほどの値打ちがあります」と評価している。

入江さんは「古くから伝わってきたはいるんですが、自筆原本なんて思ってもみませんでした」と新事実にびっくりしている。

### 写本、版本、翻刻本の異同 200年ぶりに 疑問を解明

# レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースです。

資料②



トップ > レファレンス事例詳細

## レファレンス事例詳細(Detail of reference example)



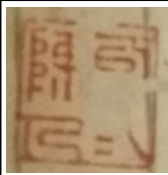


[転記用URL] [https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref\\_view&id=1000282776](https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000282776)

提供館 (Library)	関西大学図書館 (3310026)		管理番号 (Control number)	関大総図 19A-3J	
事例作成日 (Creation date)	2019年04月22日	登録日時 (Registration date)	2020年06月05日 12時08分	更新日時 (Last update)	2021年03月02日 09時20分
質問 (Question)	<p>宗政五十緒（龍谷大学教授、1929-2003）が、自身で調査・発見した神沢杜口自筆の『翁草』原本について書いた論文はあるか。</p> <p>【参考資料】                  京都新聞 昭和63年3月26日（土曜日）夕刊                  「近世後期の関西記す史料「翁草」／著者自筆の原本と確認／宗政大教授／枚方の子孫保存／写本、版本、翻刻本の異同 200年ぶりに疑問を解明」</p>				
回答 (Answer)	<p>関連する論文を見つけることができませんでした。 お役に立てず申し訳ございません。</p>				
回答プロセス (Answering process)	<p>①CiNii Books、CiNii Articles、NDL-ONLINE、国文学論文目録データベース、その他各種データベース・サーチエンジンを検索 関連する論文を見つけられず。</p> <p>②龍谷大学深草図書館・龍谷大学大宮図書館に問合せ 関連する論文は発見できなかったとの事。</p> <p>これ以上の手がかりがなく、調査を終了した。</p>				
事前調査事項 (Preliminary research)					
NDC	評議、エッセイ、随筆 (914)				
参考資料 (Reference materials)					
キーワード (Keywords)	翁草 日本文学--歴史--江戸時代 神沢, 杜口(1710-1795)  カンザワ, トコウ 宗政, 五十緒(1929-2003)  ムネマサ, イソオ				
照会先 (Institution or person inquired for advice)	龍谷大学深草図書館・大宮図書館				
寄与者 (Contributor)					
備考 (Notes)					
調査種別 (Type of search)	文献紹介 調査	所蔵	内容種別 (Type of subject)	質問者区分 (Category of questioner)	大学院聴講生
登録番号 (Registration number)	1000282776		解決/未解決 (Resolved / Unresolved)		未解決



# 赤城義士篇参考と入江家本翁草の押印比較

資料④

種類	印影	サイズmm	読み	押印 有・無		意味	種類	印影	サイズmm	読み	押印 有・無		意味
				義士篇	入江家本						義士篇	入江家本	
1 A		24×13	可々齋 珍藏	無	有	可々齋は杜口の雅号の一つ。 『翁草』巻百四「知足」にある。 杜口自身の蔵書印と考えられる。	5 E		25×24	宝永庚寅生干 洛陽	有	有	宝永庚寅は宝永七年（一七一〇）、 杜口の生誕年である。洛陽に於いて 生まれる、は杜口が京都生まれである 事を表している。従来神沢杜口の 生年には二説あり、『翁草』にある 記述から、宝永七年説が有力であつ たが、この印により宝永七年と確定 できる。又、生誕地も大坂生（講談 社）説もあり明確でなかったが、こ の印により京都（洛陽）生と断定で きる。
2 B		18×14	秦義？	無	有	笹山景義の別号か？ この印の み未解読	6 F		18×7	快哉	有	有	嬉しい、という程度の意か
3 C		44×6	罷宦識 君恩	有	有	職を辞して後、子孫や廻りのお かげで無事に暮らせる事を感謝 している、という事を表す。 『翁草』巻百八十「塵塚の塵」 に、この言葉を用いる理由を記 し、印を作った事を記している。 この印の存在は杜口の自筆を 示す決定的な証拠で、最も注目 される印である。	7 G		14×14	可々陳 人	有	有	可々は可々齋、陳人は謙讓語、 「可々齋でございます」程度の 意味。雅人がよく使う。
4 D		25×24	可々齋 杜口	有	有	此の印も杜口自筆を示す有力な 証拠となる。	8 H		14×14	杜口	有	有	

※印の判読は、「日本篆刻家協会」副理事長、真鍋井蛙氏





翁草 原本・写本・刊本 姓名相違一覧

Ver 1.4 資料⑦

巻数・タイトル	明治38年刊本における 前後の文章 ※3	入江家本	歴彩館本	関大本	島根大本	明治38年 刊本 ※3	正しいと考え られる姓名
27 諸録抜粹 信長 公三好長慶を騙す 事	ここに美濃国斎藤義就は信長の 縁座なれども其	斎藤義龍	斎藤義龍	斎藤義龍	斎藤義龍	斎藤義就	斎藤義龍
38 鬼丸の太刀の事	其節本阿弥光成へ秀吉公より 此の太刀を預けらる、光成是 を預かりて	本阿弥光成	本阿弥光成	本阿弥光成	本阿弥光成	本阿弥光成	本阿弥光徳
58 江戸城雨溜桶の 事	九つ拵へさせ、推名と申鑄物 師方にて	推名	推名	推名	推名	推名	推名(しいな)
117 本阿弥の話	明智光秀を信長公へ吹挙せ しは本阿弥光正なり	本阿弥光二	本阿弥光二	本阿弥光正	本阿弥光二	本阿弥光正	本阿弥光二
157 眞田左衛門佐 信仍略譜	眞田左衛門佐信仍略譜	眞田左衛門 佐信仍 ※1	巻150～17 5は欠巻	眞田左衛門 佐信仍	眞田左衛門 佐信仍	眞田左衛門 佐信仍	眞田左衛門 佐信繫
157 眞田左衛門佐 信仍略譜	信玄も眞田喜兵衛と○○○○ とは我両眼なりと申されし由	空欄 ※2	巻150～17 5は欠巻	空欄 ※2	空欄 ※2	○○○○	曾根昌世、ま たは曾根内 匠

※1 杜口は水戸光圀：著『桃源遺事』を読んでおり(巻118)、そこで光圀が主張する「信仍」を採用していると考えられる

※2 『甲陽軍鑑』からの引用だが、杜口は氏名を忘れ、後刻記入しようと空欄にしたがそのままになったと考えられる

※3 明治38年刊本とは、『藤井五車楼本』『富岡鉄斎所蔵本』『京都府立図書館本』を校合し、活字印刷した、言わば『池邊本』



## 入江家蔵本『翁草』調査表

巻数	使用用紙	目録の有無	印	その他
1	A1	有 A1	無	
2	A1	有 A1	無	
3	A2	有 A2	?A	
4	A2	有 A2	?A	
5	A1	有 A1	無	
6	A1	有 A1	無	
7	A2	有 A2	AB(目 A 本 B)	
8	A2	有 A2	AB(目 A 本 B)	
9	A2	有 A2	AB(目 A 本 B)	
10	A2	有 A2	AB(目 A 本 B)	
11	A1	有 A1	本 CD	
12	A1	有 A1	本 CD	
13	A1	無	本 CD	
14	A1	無	本 CD	
15	A1	無	本 CD	
16	A1	無	本 CD	
17	A1	無	本 CD	
18	A1	無	本 CD	
19	A1	無	本 CD	
20	A1	無	本 CD	
21	A2	無	本 AB	
22	A2	無	本 AB	
23	A2	無	本 AB	
24	A2	無	本 AB	
25	A2	無	本 AB	
26	A2	無	本 AB	
27	A2	無	本 AB	
28	A2	無	本 AB	
29	A2	無	本 AB	
30	A2	無	本 AB	
31	A2	無	本 AB	
32	A2	無	本 AB	
33	A2	無	本 AB	
34	A2	無	本 AB	
35	A2	有 A2	目 AB	
36	A2	有 A2	目 AB	

巻数	使用用紙	目録の有無	印	その他
37	A2	無	本 AB	
38	A2	無	本 AB	
39	A2	無	本 AB	
40	A2	有 A2	目 AB	
41	A3	無	本 CD	
42	A3	無	本 CD	
43	A1	無	本 CD	
44	A1	無	本 CD	
45	A1	無	本 CD	
46	A1	無	本 CD	
47	A1	無	本 CD	6丁は A1 残り A3
48	A3	無	本 CD	1丁は A1 図 4丁は白紙
49	A3	無	本 CD	
50	A3	無	本 CD	
51	A2	無	本 AB	
52	A2	無	本 AB	
53	A2	無	本 AB	
54	A2	無	本 AB	附録有り
55	A2	無	本 AB	
56	A2	無	本 AB	
57	A2	無	本 AB	
58	A1	無	本 CD	
59	A2	無	本 AB	
60	A2	無	本 AB	
61	A1	無	本 CD	
62	A3	有 A3	本 CD	
63	A2	有 A2	目 AB	
64	A2	有 A2	目 AB	
65	A2	有 A2	目 AB	
66	A2	無	本 AB	
67	A2		? AB	
68	A2		? AB	
69	A2		? AB	
70	A2		? AB	
71	A2		? AB	
72	A2		? CD	
73	A2	有 A2	目 CD	
74	A2	C2 ??	目 CD	

巻数	使用用紙	目録の有無	印	その他
75	A2	C2 ??	目 CD	
76	A2	C2 ??	目 CD	
77	A2	無	本 CD	
78	A2	C2 ??	本 CD	
79	A2	無	本 CD	
80	A2	無	本 CD	
81	A2	無	本 CD	
82	A2	無	本 CD	
83	A2	無	本 CD	
84	A2	無	本 CD	
85	A2	無	本 CD	
86	A2	無	本 CD	
87	A2	無	本 CD	
88	A2	無	本 CD	
89	A2	無	本 CD	
90	A2	有 A2	本 CD	
91	C1	有 C1	本 CD	
92	C1	有 C1	本 CD	
93	C1	無	本 CD	
94	C1	無	本 CD	
95	C1	無	本 CD	
96	C1	無	本 CD	
97	B1	無	本 CD	
98	B2	無	本 CD	
99	A3	無	本 CD	
100	D	? ??	??	7丁D 残り B2
	目録 A2			
101	B1	有 B1	本 CD	
102	B1	有 B1	本 CD	
103	A4	有 A4	本 CD	
104	A4	有 A1	本 CD	其蠟子編
105	A4	有??	目 CD	
106	新			
107	新			
108	新			
109	新			
110	新			

巻数	使用用紙	目録の有無	印	その他
111	A4	有 A1	本 CD	10丁分は枠の無い用紙
112	B2	有 A1	本 CD	8丁分 A4 以後 B2
113	B2	有 A1	本 CD	
114	B2	有 A1	本 CD	
115	A4	有 A1	本 CD	
116	B2	??	? CD	
117	B2		CD	
118	B2		CD	
119	B2		CD	
120	B2		CD	
121	A1		CD	3丁のみ A4 萱野三平
122	A1		CD	
123	B2		CD	124とあるのを123と訂正
124	B2		CD	
125	B2		CD	
126	B2		CD	
127	B2		CD	
128	B2		CD	
129	B2		CD	
130	B2		CD	
131	B2		CD	
132	B2		CD	
133	B2		CD	
134	B2		CD	
135	B2		CD	
136	B2		CD	途中7丁は A2
137	B2	目録 A1	CD	本文 B2 <u>洛陽大火</u>
138	E	目録 A1	CD	本文 E <u>洛陽大火</u>
139	B2		CD	
140	B2		CD	<u>眠江入楚焼失</u> <u>深草焼陶器</u>
141	B2		CD	
142	B2	有 A1	CD	
143	B2	有 A1	CD	
144	B2	有 A1	CD	<u>悲京火詞</u>
145	B2+E	有 A1	CD	後半 E
146	E	有 A1	CD	
147	E	有 A1	CD	
148	E	有 A1	CD	

巻数	使用用紙	目録の有無	印	その他
149	A1	有 A1	CD	八十翁杜口撰
150	A1	??	CD	八十翁杜口撰
151	A1		CD	暮齡八十翁其甥菴杜口撰
152	A1		CD	八十翁其甥菴杜口撰
153	A1		CD	八十翁其甥菴杜口撰
154	A1		CD	静坐百六十翁杜口
155	A1		CD	其甥庵杜口撰
156	A1		CD	静坐百六十翁杜口撰
157	A1		CD	
158	A1		CD	
159	A1		CD	八十翁杜口撰
160	A1		CD	菴 杜口撰
161	A1	有 A1	CD	静坐百六十翁其甥菴杜口編
162	A1	有 A1	CD	其甥翁寫 編
163	A1		CD	可々陳人杜口輯 写
164	A1		CD	可々菴杜口編 写
165	A1		CD	其甥菴杜口写
166	A1		CD	八十一翁明白道人謹撰
167	A1		CD	菴 杜口編
168	A1		CD	菴 杜口編
169	A1	有 A1	CD	明白老人編
170	A1	有 A1	CD	菴 杜口編
171	A1	有 A1	CD	八十一翁杜口編
172	A1	有 A1	CD	八十一翁謹寫
173	A1	有 A1	CD	菴 杜口編
174	A1	有 A1	CD	八十一翁 乘百散人編
175	A1	有 A1	CD	八十一翁 一唯道人寫
176	A1		CD	八十一翁 可々菴写
177	A1		CD	八十一翁 其甥老人寫
178	A1		CD	八十一翁 其甥老人編
179	A1		CD	八十一翁 一唯道人寫
180	A1		CD	静坐百六十翁杜口編
181	A1	有 A1	CD	暮齒八十一歳其甥翁註
182	A1		CD	
183	A1		CD	
184	A1		CD	
185	A1		CD	
186	A1	有 A1	CD	其甥翁編

巻数	使用用紙	目録の有無	印	その他
187	A1	有 A1	CD	其甥翁参訂
188	A1	有 A1	CD	其甥翁参訂
189	A1	有 A1	CD	八十一翁 明白叟編
190	A1	有 A1	CD	菴 杜口編
191	A1	有 A1	CD	暮齒 八十二其甥翁撰
192	A1	有 A1	CD	暮齒 八十二其甥翁編
193	A1	有 A1	CD	八十二翁 杜口寫
194	A1	有 A1	CD	八十二翁 其甥菴主撰
195	A1	有 A1	CD	菴 杜口編
196	A1	有 A1	CD	菴 杜口編
197	A1	有 A1	CD	菴 杜口編
198	A1	有 A1	CD	
199	A1	有 A1	CD	明白老人撰
200	A1		CD	八十二翁杜口誌

八十 翁	1789	寛政元年
八十一	1790	寛政二年
八十二翁	1791	寛政三年

『翁草』	寛政三年六月
『赤城義士篇参考』	寛政四年春 (A1)
『塵泥』	(A1)

## 一『翁草』各所在一

【写本】国会（二〇〇卷六〇冊）（九六冊），内閣（一〇〇卷五一冊）（二〇〇卷目錄二卷一五〇冊）（卷九五欠、二二〇卷一〇一冊）（別本、六〇卷二冊）（抄、撰津徴一四〇），静嘉（樗園叢書一七五 - 一七九、五冊），宮書（一〇七卷一〇八冊）（池底叢書八五・八六）（諸家隨筆一九 - 二二），阪大（卷三一 - 三八・八五 - 九二、一〇冊），学習院（二四冊），関学（五冊），京大（二〇〇卷目錄一卷六〇冊）（五冊），教大（明和九写二〇〇卷一〇二冊），東大（抄本、二冊），東北大（卷三七 - 三九・四三 - 四九・五六 - 五八・六三 - 六六・七五 - 七八・一一六・一一七・一二六 - 一三九、一〇冊），東北大狩野（八九卷付録一卷二〇冊）（安政二越如川子写一冊），北大（文化八写二〇〇卷八八冊），竜谷（一〇〇卷），秋田（五冊），愛媛伊予史（一冊），京都府（三五冊），日比谷加賀（卷一四二 - 一四四），刈谷（抄本一冊），鶴舞（抄本一冊），北野（二一冊），桜山（一〇〇卷二〇冊）（五卷二冊），天理（二〇〇卷四〇冊），無窮神習（玉籠二三七、池底叢書本写），〔補遺〕竜谷（卷一六六 - 一七〇、一冊），秋田（二〇〇卷五二冊），足利（文政一二写、塵泥を付す、二〇〇卷一一九冊），無窮神習（「其蝸庵隨筆翁草」、二冊）

【版本】<天明四版（五卷五冊）>国会，東大（一冊），東北大狩野，竜谷，富山志田，鴻山，無窮神習，旧下郷，横山重，〔補遺〕学習院，日比谷加賀<文政一二版>〔補遺〕松宇（卷二・三欠、二冊）<嘉永三版（五卷五冊）>内閣，大阪市大，京大，東北大狩野，京都府，大橋，〔補遺〕東博，京大谷村，上田花月<嘉永四版（五卷五冊）>東大，東北大，日大，秋田，雲泉，茶岡武藤，〔補遺〕静嘉，教大，日比谷加賀<刊年不明>東大（四卷四冊），日大（五卷），秋田（一冊），日比谷加賀（五卷五冊），〔補遺〕九大（四卷四冊），岩手（卷一・三・四、三冊），神宮（五冊）

【複】〔活〕続帝国文庫名家漫筆集・存採叢書一三一・日本隨筆全集一五・日本隨筆大成三期一一 - 一三・校訂翁草（池辺義象校、明治三八）

2013年9月現在

## 一神沢杜口著作物一

【俳諧関係】ふたりつれ、やせ牛、春興、其蝸庵杜口発句數（集）

【隨筆・評論・記録関係】翁草、塵泥（ちりひじ）、赤城義士篇参考、天喜録、睡余寄観